



2013年（平成25年） 10月7日 月曜日

日刊 産業新聞

鉄のふしぎ？ 博物館

■14

画像はカラーと
交換しています。

衣川製鎖工業・衣川良介社長

日刊産業新聞 13・10・7

三重県鳥羽市へ行く機会に恵まれ、久しぶりに市内のお客さまを訪問しました。漁港（写真①）の近くで船舶関連の仕事をしておられます。弊社の近況報告をし、お客さま



①鳥羽漁港

サビた係船環



②鳥羽漁港のサビた磁石につく係船環（取付部に磁石がひっついている）

の商売の様子をお聞きした後、世間話をしていました。衣川さん、ステンレス鋼のこと詳しいよね「ハイ」近所の漁港のステンレス係船環、設置して1年も経っていないのに、もうサビがたくさん出ているよ。一度見てください」

漁港へ行き係船環を見ました。入り口から10数個の係船環が岸壁に並んでいます。一番手前の係船環は赤サビが一杯発生しています。2番目はそれほどではありません

係船環の材質は SUS304 または SUS316、または同等以上の品質を有するもの。なお、請負者はリンク部の溶接部をフラッシュバット溶接等とし、リンク部周辺をバレル研磨するものとする——

しかし、私の見た鳥羽漁港の係船環はアーく溶



③知床半島の付け根、ウトロ漁港の係船環（弊社製造設置後7年、サビ発生なし（03年5月撮影））

2007年愛知県であり



④笑い話の切れた係船環（07年愛知県）

持っていました。

「かんかん」に怒った船頭さんが工事業者を怒鳴りつけました。工事の資材を納入した業者は、弊社の納入した商品と勘違いして、私も同様に怒鳴られました。取りあえず不良の商品を送り返してください。調査をしますから。そう返事をして到着を待ちました。翌日届いた係船環は弊社製品ではなく他社のもので、コンクリートとの接触面が腐食し切ったのです（弊社は全量、刻印にて自社製を表示しています）。その商品は今回のように、

サビの発生も見られ、磁石がパチンつきました。サビにくいステンレス鋼（SUS304やSUS316）を使うのは漁師さん達が気持ちよく係船し、長持ちをするための材質選定です。手抜きをし、本来のステンレス鋼の特性を殺してしまうのは、もったいない行為です。「悪貨良貨を駆逐する」と言いますが、そうならないことを願っています。

▽係船環（けいせんかん）

船舶を係留するため、漁港の岸壁や棧橋などに設けた、ワイヤーやロープを結びつけるための環。1980年代後半にステンレス鋼の製品が登場。2005年ころからほとんどがステンレス鋼製になる。弊社では丸環部はフラッシュバット溶接で製造、開始したのは1990年です。漁港建設が盛んだったころ、全国30%のシェアを持っていました。